

西光寺だより

第二四四号 令和四年 八月一日発行

◆今月の言葉◆

誰にとつても

故郷は

愛しい

お釈迦さま

故郷は「ふるさと」とも「こきょう」とも読みます。特に「ふるさと」は『万葉集』にもみられるほど古くから使われている言葉です。

この故郷は「出身地」と同じ意味でも使いますが、さらに拡がりをもった不思議な響きがあります。生まれた場所だけでなくそこで育った頃の懐かしい思い出がこの言葉には込められているのでしよう。

さて、お釈迦さまも晩年、故郷が隣国に攻め込まれ滅ぼされるといふ悲しい経験をされ、このお言葉は、その時に発せられたものです。

悟りを開かれ、執着、あらゆるとらわれの心から離れられたお釈迦さまであっても、やはり生まれ育った故郷のことは愛おしく思われたのでしよう。

近年世界では自然災害や戦争などにより故郷を離れざるをえない多くの方々がおられます。しかし、たとえ生まれた場所を奪われてもふるさとを思う心を奪うことは誰にも出来ません。

お盆に漂うお線香の薫りと共に愛おしいふるさとを思い、そしてご先祖さまを思い、手を合わせたものであります。

合掌

◆九・十月の行事◆

・九月 〃 在家報恩講

・九月 十五日 (木)

大谷本廟墓参 (みのり講・穂積講の方)

午後二時

大谷本廟お茶所

※なお、墓参の際、念珠・経本・千円を宜しくお願い致します。

行かれない方は千円を西光寺、又はお逮夜参りの際によりしくお願い致します。自己判断のうえ、ご自由にご参加ください。

・九月 二十三日 (金)

仏教婦人会報恩講

午後一時〃午後一時三〇分 (正信偈)

西光寺本堂

※感染症予防のためお勤めのみとさせていただきます。

・九月 三〇日 (金)

秋季永代経法要

午後二時〃午後二時三〇分 (正信偈)

西光寺本堂

※感染症予防のためお勤めのみとさせていただきます。